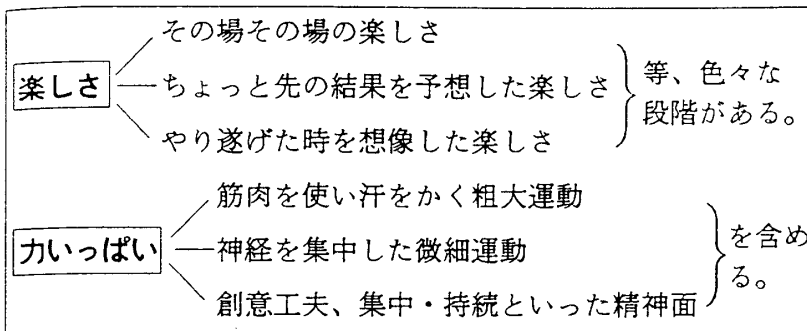


② からだからの学部テーマ「楽しんで力いっぱいからだを動かす子」の設定

「まだまだ伸びざかりの思春期のからだを楽しんで、思いっきり、熱中して動かす（精神面も含めて）」という気持を込めて、上記のからだ像（学部テーマ）を設定した。

また、テーマ設定の経過の中で、次の事を共通理解した。



③ からだづくりをめざした教育課程の編成と研究単元の実践

健康増進、運動・養訓への取り組みに加えて、生活単元学習にからだづくりの場を広げ、それを教育課程の中心に据えた。年間に5つの「遊び的労働を重視した単元」を選定、実践した。その実践を通して、一人ひとりの「楽しんで力いっぱい…」の具体的姿やそれを引き出す要因を探り、段階を追って配列し、指導の手がかりにした。

④ からだづくりでめざしている具体的なからだを明確にし、評価のための試案作成に着手

我々のめざす、社会的自立の基盤となるからだとは、「意欲、やる気のあるからだ」「自由に使いこなせるからだ」「がんばれるからだ」と共通理解し、それを評価するメジャーとして「からだの輪郭表」「意欲的な姿の段階表」等の試案を作成した。

(3) 本年度（3年次）の取り組み

昨年度は、からだづくりに視点を当てた教育課程の概要ができあがり、その実践を通して、子どもたちのいきいきした姿など一応の成果を見ることができた。しかし、いくつかの課題も残された。中でも「どの子にも（特に重い子どもに）楽しんで力いっぱい取り組める授業が保障できたかどうか」という授業展開上の工夫については反省課題として残された。この事については、鳥大助教授渡部昭男先生によって「発達・年齢・障害に応じた授業づくりを」と、研究発表大会の講演の中でも本年度の課題として提起された。また、3年目を迎え、リズム、サーキットの見直しの時機であることも学部で確認された。そこで本年度は、次の二点に研究の視点を当てた。

① 研究の構想や単元等、昨年ものを踏襲しながら

- ・意欲的に取り組み楽しんで力いっぱい活動できる — **授業づくりの実践**
- ・集団の中でのより良い個への対応の仕方をさぐる (生活単元学習と体育を中心に)

② 中学部の生徒の実態に応じたリズム及びサーキットの内容の見直しと組み立ての改善

【4】 生徒の実態

一部新しいテストを導入したが、結果を比較する目的もあり、昨年と同じテストを実施した。本

年度は「授業づくり」に視点を当てた事もあり、表われた結果だけでなく、その背景にある発達段階の留意事項を読み取って授業の手だてに生かしていく姿勢を大切に、文献研究等にも力を入れた。また、学部を平均すると昨年とほとんど変わらない実態であるが、一人ひとりには一年間の重みのある経過の中での実態である事、数値がほとんど変わらない子（特に重い子）でも、数値に結びつかない数多くの変容を含んで幅を拡げている事等を念頭において、子どもを見つめていった。

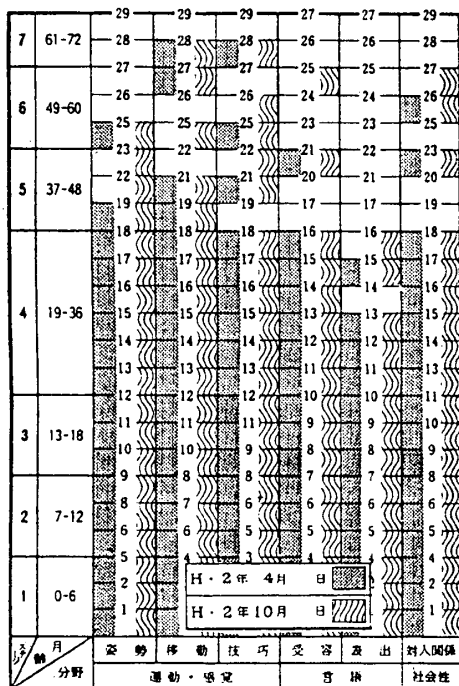
(1) 津守式乳幼児精神発達検査 (55頁、図1、H・2・4月実施)

【目的】 発達段階、領域間のプロフィール等から、その背景にある心理・行動特性と併せ、指導の基本的な考え方、課題、手だてを探る。また、グループ編成の参考にする。

【考察】 全生徒17名は、図1に示した特徴的な4タイプで代表される。学部、クラス内での能力差が大きく、グループ作りや複数課題への配慮が必要である。また、層化現象（領域間の得点の差）が見られる。得点の高い得意を生かすか、得点の低い不得意に手だてをするか、一人ひとりによって見極めが大切である。できるだけ得意が生かせるようにしていきたい。

(2) MEPA (ムーブメント教育プログラムアセスメント) (H・2・4月・10月実施)

【図7】 Y子のプロフィール



【目的】 ムーブメント教育のめざすからだづくりのスキル達成の状況、達成段階を把握し、リズムやサーキットの内容選定の資料にすると同時に、めざすからだ評価の一つの指標にする。

【考察】 左に示す図7は、学部の傾向を顕著に示すY子（Bタイプ）の結果である。全体的に言語・社会性の4ステージ、運動感覚の5ステージに力点をおき、未達成の課題に手だてをしながら6～7ステージの内容を学習に取り入れていく事が大切である。

MSTBプロフィール (H・2・4月と10月実施)

| 下位検査名 | ねらい | SS | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 |
|-------------|--------|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| ビーズの糸通し | 目と手の共応 | ● | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| こぶし→掌 | 片手の共応 | ● | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 積木うっし | 目と手の共応 | ● | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| お手玉投げ | 目と手の共応 | ● | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 前屈リーチ | 背骨と背筋 | ● | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 立ち幅跳び | 脚の筋力 | ● | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 往復走 | 方向転換 | ● | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 体の位置変換 | 敏捷性 | ● | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 起き上がり | 腹筋力 | ● | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 歩行板 | 動的バランス | ● | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 片足バランス (開眼) | 静的バランス | ● | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 片足バランス (閉眼) | 静的バランス | ● | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 椅子の腕立て伏せ | 腕と肩の筋力 | ● | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

(3) (MSTB、ムーブメント・スキル・テスト・バッテリー)

【目的】 MEPAのスキルは7歳

で頭打ちになる。MSTBは6～12歳の子ども及び精神遅滞者の感覚・運動能力を上図8に示す内容・観点で評価するものである。MEPAの結果が6～7ステージ段階にある11名にこのテストを実施し、12歳男女の評価基準表を使って標準偏差値を算出し、MEPAと同じ目的で参考的に使用を試みた。

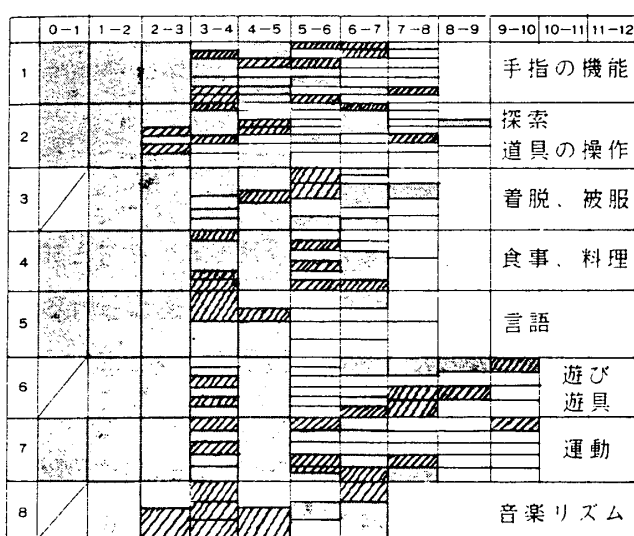
〔考察〕 前頁図8は、11名の結果を平均的に示したU男のプロフィールを示したものである。

全体的に「目と手の共応」「スピード、敏捷性」「腕と肩と筋力」に劣り、背筋・腹筋の強化といった粗大運動と同時に、微細運動につながる上腕の分化を更に図っていく必要がある。

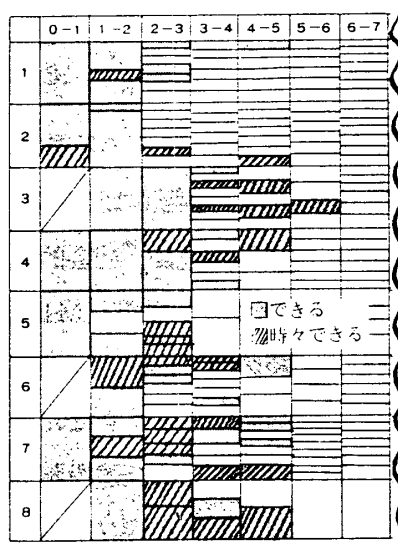
(4) からだの輪郭表 (H・2・4月と10月実施) [・印は10月段階で変容を示したもの]

〔目的〕 MEPAの項目より更に総合的な、日常的なからだのこなしにまで広げてからだを捉えようとしてのが学部独自に作成した「からだの輪郭表」である。未達成の項目をできるだけ学習内容や個人目標として学習活動に結びつけていき、直接的にアプローチすると同時に、めざすからだ (特に使いこなせるからだの角度から) を評価する一つの指標にする。

からだの輪郭表 (試案) [発達段階は (0~1才) ~ (11~12才) までの12段階に分けてある]



〔図9〕 Y子 (発達段階4.5~5歳)



〔図10〕 A子 (発達段階2~3歳)

〔考察〕 上の図9、10は中学部の平均的な姿を顕著に示すBタイプY子及び重い子の特徴を示すA子の結果を示したものである。かなりの能力差があり、個に応じる工夫の大切さを痛感する。しかし両者とも年齢効果のある生活習慣、遊び、運動が他の領域より優れている。この力に依拠しながら手指の機能、道具の操作の力を強め、言語を育てていくことが大切である。「遊び的労働」をとり入れた昨年あたりから道具使用の機会や内容が増えたため、全体的に探索・道具の操作の項が少しずつできだし、中学生らしい特徴を示している。

(5) 意欲・態度 (H・2・5月にめざす姿を作り10月に評価)

〔目的〕 我々がめざすからだづくりの中心には意欲・態度を据えている。やる気をはじめ集中力や自己統制力が学んだことを「生きて働く力」として実現するための重要な役割を持っているからである。中学部では昨年、子どもたちの意欲・態度を観察記録から集約し、「興味・集中・持続」「目的意識・積極性」「自制心・がんばり」「集団参加・協力」の4つの観点に分類し、段階を考慮しながら配列した『意欲・態度の評価試案』を作成した。本年度は、一人ひとりがどの段階の特徴を持っているか、次にめざす姿は何かを、この表を参考にしながら見定めてみた。次頁に示すのはその一例である。

〔考察〕 まだまだ掘り起こしやあたためによって意欲を高めた。周りの援助から自律心を強めたりする段階の子が多い。

| 名 | 現在の様子 | 目指していく姿 |
|----|--|--|
| A子 | <ul style="list-style-type: none"> ・「もーいい」とすぐ止めてしまう。じっとして動かなくなる。 ・興味をひかれるままに行動する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・担任の声かけ褒め言葉に何とか自分を頑張らせる。 ・じっと考え、十の行動を選択する。 |
| Y子 | <ul style="list-style-type: none"> ・やりたい事、自分の興味の引かれるままに、すぐ行動してしまう。 ・担任等の顔色を感じとって頑張る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・担任の励まし、褒め言葉に少しずつ長時間、自分を頑張らせる。 ・励ましを受けて、後一息頑張る。 |
| Y子 | <ul style="list-style-type: none"> ・経験の範囲内では積極的に見通しを持って取り組むが、少し範囲が広がると自信がない。しりごみをする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・経験の範囲内で積極的に見通しを持って取り組む。経験の無いことでも恐れず、やってみようとする |
| S男 | <ul style="list-style-type: none"> ・やり方やする事が分かれば、いちいち指示されなくても見通しを持って取り組む。目的意識もかなりある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・計画表、段取り表などがあれば、少しはそれを支えに、見通しを持って行動する。あれこれ挑戦する |

無理のない根回しや環境づくりで子どもたちが「自分たちの思いで、願いで学習が展開しているのだ」

という気持ちを持つよう配慮しながら、次をめざしていくことが大切である。その意味からも「授業づくり（意欲的な取り組みへの工夫）」は重要である。

(6) 段階別教育内容の到達度（社会的自立にどの程度近づきつつあるか）（H・2・4月と10月）

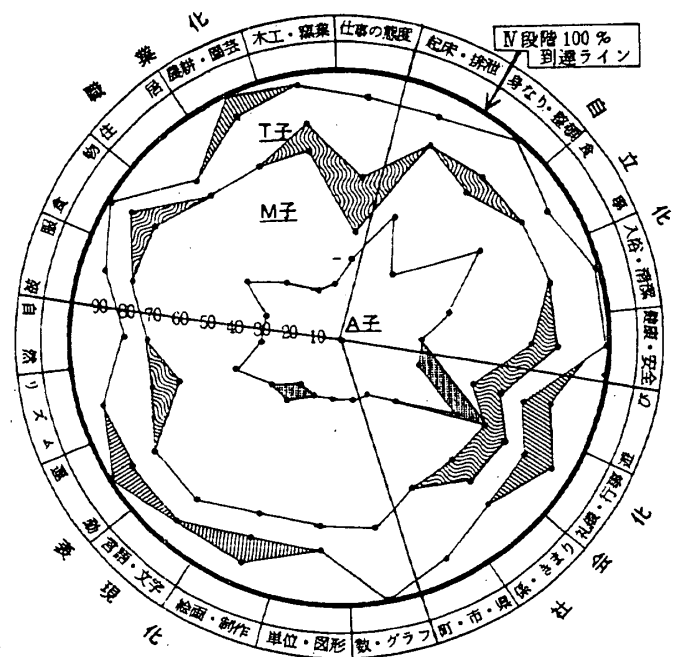
以上、使いこなせるからだ（MEPA、MSTB、からだの輪郭表）、やり遂げられるからだ（自己統制力、持久力、集中力）、意欲・やる気のあるからだ（意欲、積極性、集団参加）を把握し一人ひとりのめざすからだをなんとか浮き彫りにしようとした。

次に示す図11は、A子（発達段階2～3歳）とM子（発達段階5～6歳）T子（発達段階7～8歳）の3人の段階別教育内容Ⅳ段階への到達率を一つのグラフの中に示したものである。

我々は「育ちざかりの思春期のからだを【図11】段階別教育内容Ⅳ段階到達度の変容

力いっぱい動かすこと」によってからだづくりをめざし、そのめざすからだの向上こそ社会的自立への到達度を広げる中心となる力だと仮定してきた。段階別教育内容表の内容が身についていく事と、めざすからだは向上していく事に、何等かのかかわりを求めようとしたものである。

A子、M子、T子に代表されるように17名の子どものグラフの広がりやプロフィールにはかなりの個人差がある。我々は一一人ひとりの子どもがその子で持つ能力を十分に発揮し、その子なりの社会的自立（自己実現）をめざしながらこの広がりを



■部分は4月～10月の変容

少しずつ少しずつ広げていける援助の方法を実践的に追及するものである。